

インドネシア人結核患者への支援について

気仙沼保健所 疾病対策班 技師 木村 亮

Key words: 結核, 外国人, 連携・協働

I はじめに

気仙沼保健所管内でインドネシア人の結核患者が発生し入院した。入院中から、コミュニケーションの問題、退院時期の調整、帰国後の治療体制の構築に対して課題が生じた。当保健所では、入院先の医療機関・派遣会社・結核研究所と連携し、退院・帰国に結びつけた。今回、外国人結核患者への退院までの支援内容について検証し、今後の外国人結核患者支援の一助とするべく事例報告をする。

II 活動内容

患者の退院に向けて、医療機関・派遣会社・保健所でケース会議等を重ね、下記の課題を解決しながら支援を行った。

課題1：退院決定後、患者及び派遣会社が帰国を希望したため、日本でどの時期まで入院治療をするのか。

課題2：患者・医療機関スタッフ双方が感じたストレスへどのように対処するか。

課題3：帰国後、治療と服薬を継続するための体制構築が可能か。

＜実際の支援と関係機関との連携＞

【課題1に対して：退院の時期について】

患者は退院後にインドネシアへの帰国を希望していたが、関係者の間では治療継続は可能なのか、との懸念があった。このため、ケース会議を何度も開催し、派遣会社からの情報や結核研究所からの助言を受けながら退院の時期について検討した。最終的には、患者が日本での入院治療を希望したこと、結核研究所からは日本でしっかり治療してから帰国することが望ましいとの助言があったこと、関係者間でも入院治療可能期間まで日本で治療することが患者にとって最大の利益であるとの認識で一致したため、入院治療可能期間まで日本で治療し、退院・帰国となった。

【課題2に対して：ストレスへの対処】

患者と医療者側間でインドネシア語での会話が不可能であったため、お互いにコミュニケーションが取れなかったため、以下のような問題が生じた。

患者	医療機関スタッフ
結核病棟で隔離された環境(孤独, 自由がきかない)	通訳なしで医療者側の説明がどの程度伝わっているか不明であった。
食文化の違いから、食事摂取に偏りが見られた。	患者の偏食の理由が分からず、対応に苦慮した。

以下のように対処した。

ことば・コミュニケーション	食事	患者への結核治療等についての説明
派遣会社からタブレット端末の貸与。 ⇒翻訳ツール, SNS	通訳者から食事の重要性を伝えてもらった。	通訳者から結核治療の必要性や治療経過等をインドネシア語で伝えてもらった。
結核研究所医師からインドネシア語で励ましてもらった。	結核研究所医師から食事に関する助言をもらった。	

【課題3に対して：退院後の治療継続のために】

入院中から治療の必要性を伝えるために当保健所が作成したパンフレットを使用し、通訳者が同行した時は特に力を入れて服薬継続の必要性を具体的に伝えた。帰国後も治療継続が必要であるため、結核研究所、派遣会社のスタッフから現地の医療・治療状況や治療体制の情報収集を行った。また、保健所長を介して、外国人結核患者の多い東京都から情報収集を行った。その結果、現地の医療機関や保健所で治療可能であることが判り、現地の保健所への紹介状を作成した。加えて、帰国後も抗結核薬が途切れることがないように、治療終了までの抗結核薬を処方してもらった。

III 考察

保健所も医療機関もインドネシア人患者に対して支援経験がないことから入院当初から様々な課題があった。今回の患者支援がうまくいった要因は下記のことであったと考えられる。

- ① ストレス環境下でありながら、患者は治療に対して意欲的で忍耐強さがあった。
- ② 言葉や習慣・文化の違いなどがありながらも、医療機関スタッフの献身的な医療およびケアがあった。
- ③ 入院生活の中で挙がった課題に対して、ケース会議等を開催して迅速に対応した。

④ 患者の治療完遂に向けて、医療機関・派遣会社・保健所が緊密に連携し、目標を共有しながら支援ができた。

課題としては、外国人結核患者が今後も発生することを想定し、結核予防の手引き内で外国人対応の項目や外国人用パンフレットを充実させる。また、県内の外国人患者への支援事例やデータを収集することと外国の医療や結核治療体制の情報を収集する方法を充実させる必要があると考えられる。

IV 結論

結核治療は、決められた期間しっかりと服薬することが原則であり、患者に治療や服薬の必要性を理解してもらうことが重要である。外国人患者においては、言葉や習慣の違いから外国人特有の問題が生じ、服薬中断のリスクは高くなる。今回の支援をとおして関係者で目標を共有し、一つ一つの課題に向き合い、迅速に対処することで関係者同士の連携や信頼関係の強化につながった。このことが患者の治療に対する意欲を支え、帰国後の治療継続につながったと考えられる。

V 引用・参考文献

- 1) 公益財団法人結核予防会 (2013) 結核の統計 2013
- 2) 平成 19 年 9 月 7 日 健感発第 0907001 号 厚生労働省健康局 結核感染症課長通知 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における結核患者の入退院及び就業制限の取扱いについて 第 2 退院に関する基準
- 3) 公益財団法人結核予防会 stop TB by DOTS 「結核!?!でも心配しないで」 資料(外国人結核)
(<http://www.jata.or.jp/rit/rj/TB2008/start.html>)